ID No.	2110
研究課題名	子宮体癌スクリーニングにおける液状化細胞診検体の遺伝子解析研究
研究代表者	斎藤　豪　　（札幌医科大学・教授）
研究組織 　受入教員 　研究分担者	 古川　洋一　　（東京大学医科学研究所・教授） 岩崎　雅宏　　（札幌医科大学・准教授） 松浦　基樹　　（札幌医科大学・講師） 寺田　倫子　　（札幌医科大学・助授） 長谷川　匡　　（札幌医科大学・教授） 杉田　真太朗　（札幌医科大学・准教授） 池上　恒雄　　（東京大学医科学研究所・准教授） 山口　貴世志　（東京大学医科学研究所・特任講師） 畠山　晴良　　（東京大学医科学研究所・学術支援専門職員） 幸保　莉香　　（東京大学医科学研究所・技術補佐員）

研究報告書

子宮内膜ブラシで採取した液状化細胞診検体（ 10 ml ） の余剰検体（ 2ml）からDNAを抽出し、子宮体がんで高頻度に体細胞変異が認められる遺伝子の中で変異の存在する領域が比較的狭い5遺伝子（PTEN、PIK3CA、CTNNB1、KRAS、TP53）を選択し、48例でアンプリコンシーケンスによる遺伝子解析を行った。子宮体がん20名の中で15名は液状化細胞診のみで要精密検査と診断され、遺伝子解析では18名が腫瘍を疑われ、そのうち17名に子宮がんが認められた。両者の併用で子宮体がん全例が診断可能であった(Matsuura, et al. CancerScience 2018)。現在検体数を増やした解析を行っている。

新たな研究として進行卵巣癌患者の腹水および腫瘍組織からDNAを抽出し、12例でアンプリコンシーケンスによる遺伝子解析を行った。腫瘍で見られた12変異のうち腹水では5変異が見られており、腹水のみでの遺伝子診断が可能であれば低侵襲、低コストでの遺伝子診断が将来的に実現する可能性があり今後も研究を継続していく予定である。